

## 1 調査の目的

(1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握、分析することにより、教育及び教育施設の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善策に役立てる。

## 2 調査の概要

(1) 実施期日 平成25年4月24日(水)

(2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年

(3) 調査事項

ア 教科に関する調査

・国語A、算数・数学A・・・主として「知識」に関する問題

・国語B、算数・数学B・・・主として「活用」に関する問題

イ 児童・生徒を対象とした質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査

			58.1	44.8	72.7	54
			62.6	49.7	76.2	57.7
			62.7	49.4	77.2	58.4
		80.6 81.9	54.5 56.3	71.3 72.9	57.8 69.6	
		81.4 81.7	55.4 55.8	73.1 73.5	58.7 59.1	
			72.4	65.3	58.1	35.6
			76.5	68.8	62.8	40.6
			76.4	67.4	63.7	41.5
		74.1 75.3	62.5 63.8	59.3 61.1	47.1 49.1	
		75.0 75.2	63.2 63.4	62.0 62.3	49.2 49.5	

<留意事項>

平成24年度の本調査は抽出調査であったため、上の表中に示した調査結果概要については、平均正答率の95%信頼区間で表示されている。

<用語説明>

- 1 各教科ごとの平均正答率・・・それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率
- 2 領域、問題形式ごとの平均正答率・・・それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
- 3 平均正答率の95%信頼区間・・・95%の確率で、全員を対象とした調査(悉皆調査)の場合の平均正答率が含まれる範囲のこと

**国語A** (主として「知識」に関する問題)

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「話すこと・聞くこと」については全国・県平均を上回り、「読むこと」については、全国・県平均とほぼ同様、「書くこと」については全国・県平均を下回る結果でした。
- 「文の定義を理解する」「接続語を使って内容を分けて書く」「目的に応じて資料を読み、わかったことを的確に書く」「スピーチの表現を工夫する」などに課題があります。

**国語B** (主として「活用」に関する問題)

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読む能力」と全国・県平均を下回る結果でした。
- 「話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言する」「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用する」「目的や意図に応じ、複数の内容を関係づけながら自分の考えを具体的に書く」などに課題があります。

**算数A** (主として「知識」に関する問題)

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数と計算」「図形」「数量関係」については全国・県平均を下回り、「量と測定」については全国・県平均とほぼ同様な結果になっています。
- 「小数の加法の計算」「単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解している」「1アールの面積と等しい正方形の一辺の長さを理解している」「合同な三角形をかくために必要な条件の理解」などに課題があります。

### 算数B（主として「活用」に関する問題）

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」については全国・県平均を下回る結果となっています。
- 「示された平均を求める式から、その計算の結果が何を求めているのかについて理解している」「表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる」「割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できる」などに課題があります。

### 【今後の指導のポイント・国語】

- 「相手の立場や状況を考えて、適切かつ効果的に助言する言語活動」「意見を述べた文章や活動を報告する文章などを目的に応じて編集する活動」「文の定義や文及び文章の構成について学年の段階に応じた学習」の充実を図ります。

### 【今後の指導のポイント・数学】

- 「筋道を立てて考えた過程について振り返る活動」「具体的な場面に対応しながら事柄や関係を式に表したり、場面から式や計算の結果の意味を読み取ったり、言葉や図を用いて表現する活動」「根拠を基に論理的に説明する活動」の充実を図ります。

## （2）中学校

### 国語A（主として「知識」に関する問題）

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、全国・県平均を下回り、「読むこと」については全国・県平均とほぼ同様な結果となっています。
- 「話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす」「書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直す」「文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確に書く」などに課題があります。

### 国語B（主として「活用」に関する問題）

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」については全国・県平均をほぼ同様な結果でした。
- 「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」「文章の構成や表現の特徴を捉える」などに課題があります。

#### 算数A（主として「知識」に関する問題）

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」については全国・県平均を下回る結果になっています。
- 「正の数と負の数の意味を、実生活に結びつけて理解している」「数量の関係や法則などを文字式で表す」「角の二等分線の作図の方法を、図形の対称性に着目して見直すことができる」「空間における2直線の位置関係を理解している」などに課題があります。

#### 算数B（主として「活用」に関する問題）

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」については全国・県平均を下回る結果になっています。
- 「事象と式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる。」  
「事柄が成り立つ理由を示された方針に基づいて説明することができる」「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」などに課題があります。

#### 【今後の指導のポイント・国語】

- 「具体的な場面を設定し、話合いの方向を捉えて司会進行を進めるなどの学習」「根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く学習」「目的に応じて文章の特徴を捉える学習」の充実を図ります。

#### 【今後の指導のポイント・数学】

- 「実生活の様々な場面における数量やその変化を正の数、負の数を用いて表す活動」「事象と式の対応を的確に捉える活動」「事象を多面的に見る活動」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動」の充実を図ります。

※質問事項は、小学校123項目、中学校124項目からの抜粋

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値 (%)

1		97.8	97.2	96.3	96.7	94.6	93.8
2		82.2	82.1	80.5	60.5	63.9	64.5
3		95.5	93.2	90.6	92.4	93.2	92.5
4		95.0	94.4	93.0	94.6	95.1	94.2
5		61.7	62.3	58.9	45.0	45.8	44.5
6		97.9	97.3	96.4	81.9	83.6	86.8
7		62.9	60.2	57.9	57.9	56.5	57.7
8		93.0	90.0	87.2	82.6	83.9	81.4
9		69.3	66.1	66.2	57.0	55.8	55.5
10		91.9	91.0	88.8	74.5	71.0	69.6

**【調査結果から分かる特徴】**

- 家庭生活についての質問については、小学生では、全国・県平均と同様な結果になっている項目が多くなっています。中学生では、「家でお手伝いをしている」「家で、学校の宿題をしている」は、全国・県平均を下回っています。
- 学習面についての質問には、小学生では、国語・算数への興味関心は全国・県平均を上回っています。中学生では国語への興味関心は全国・県平均とほぼ同様ですが、数学への興味関心では全国・県平均を上回っています。

**【家庭生活の改善点】**

- 家庭で手伝いをしたり、進んで地域の人にあいさつをするなどの機会を増やして、家庭や地域の人とのつながりを深めていくことが大切です。
- 家庭学習について家族で話し合い、進んで学習する習慣を身につけさせることが大切です。